

新型コロナウイルス対策

自分で行う消毒マニュアル

【条件】ウイルス陽性確認がない場所での実施を前提としている。

※陽性者滞在エリアの場合は、防護装備含め専門家への消毒依頼が望ましい。

※新型コロナウイルスについては知見が少なく、当資料の掲載情報については、不正確な記載を含む可能性があります。本会はここに記載された内容をいつでも予告なく変更できるものとし、また、利用者は自己責任において当資料情報を判断するものとし、本会は当資料利用者が行う一切の行為について、何ら責任を負うものではありません。

【作業者の安全について】

- ・窓やドア開放、換気扇作動など、室内換気を図りながら作業する。
 - ・マスク、ゴム手袋着用。眼鏡等もあれば望ましい。
- *使い捨てマスクが無い場合、布マスクやタオル代用でも良い。

手法①：清拭（せいしき）

「エタノール70%以上～80%程度の殺菌剤」を使い捨て紙ウエス（キッチンペーパーでも可能）等に十分染みこませ、人の手の届く範囲をていねいに拭き取る。

「エタノール」が無い場合、「次亜塩素酸ナトリウム」（製品名ではハイター、キッチンハイター、ブリーチ等）を水道水で50倍～100倍に薄めて用いても良い。

*清拭場所の例：ドアノブ、照明・エアコン・家電のリモコンやスイッチ、引き出しの把手、パソコンキーボード、筆記具、窓枠、窓鍵、ベッドフレーム、水道栓、シャワーヘッド、便器フタ、便座など、通常使用で手指が触れる範囲。

*「次亜塩素酸ナトリウム」の場合、漂白作用により清拭箇所の変色や金属が錆びる等の副作用がある。副作用を避けたい場合、清拭5分後に水雑巾でもう一度拭き取る。

*「エタノール」でも素材により変色等がありえるので、目立たない箇所で試すと良い。

*紙ウエスは汚染面を使わず、全体的に汚れたら新品に交換しつつ作業する。

*机の上など広い場所は、紙ウエスを一筆書きの要領でゆっくり動かして拭き取る。

雑にぐるぐる回すように素早く行くと、拭き残りが出て菌を広げるので注意。

手法②：噴霧（ふんむ）

「次亜塩素酸ナトリウム」を水道水で100倍程度に薄め、園芸用噴霧器や洗濯物用霧

吹きに入れ、人の手の届く範囲や人の歩く床面に向け、しっとり湿る程度吹き付ける。

噴霧時に薬剤を吸い込まないように慎重に行ってください。

*噴霧場所の例：畳、床、絨毯、カーテン、ベッドマット、浴槽、浴室壁、便器内

*漂白作用や金属が錆びる副作用がある。

副作用を避けたい場合、拭き取れる場所は噴霧 5 分後に水雑巾等で拭き取るか洗い流す。

手法③：洗濯

衣類、リネン類、カーテン等は通常の洗剤に「次亜塩素酸ナトリウム」を適量加えて洗濯・乾燥する。

*「次亜塩素酸ナトリウム」の用法・用量はボトルに記載されている事項を遵守。

手法④：浸漬（しんせき）

食器、調理器具等は「次亜塩素酸ナトリウム」を水道水で 100～200 倍に薄めたものを洗面器や流し台シンクに溜め、その中に 5 分以上沈めた後に取り出してすすいだ後、食器用洗剤で洗浄・乾燥する。

【注意事項：必ずお読みください】

*作業中、薬剤臭が強いと感じた場合は少しずつ間をおいて作業する。

*作業後、薬剤臭が強いと感じた場合は薬剤臭が消えるまで入室しない。

*「エタノール」は引火性が強いので、火気に十分注意し、狭い場所で一度に長時間の作業は避ける。

*「エタノール」で床ワックスが溶ける、清拭面が変色する等も起こるので目立たないところで確認すると良い。

*「エタノール」は低濃度では効果が無い。70%～以上の薬剤が入手できない場合、「次亜塩素酸ナトリウム」を選んだほうがベター。逆にエタノール濃度が高すぎる場合は 80%程度に水で薄めて使うと良い。

*「次亜塩素酸ナトリウム」は酸性洗剤と混用すると有毒ガスが発生するので注意。

*市販製品の「次亜塩素酸ナトリウム」の成分は次亜塩素酸ナトリウム 5%程度。

50 倍では 0.1%、100 倍では 0.05%となる。当然濃度が高い方が殺菌効力は高いが、臭いや副作用も強くなるので、希釈倍率は状況に応じ自身で判断する。

また、次亜塩素酸ナトリウムの哺乳瓶用消毒剤でも代用可能だが、濃度は 1%程度なので 10 倍～20 倍で用いる。市販品は次亜塩素酸ナトリウムの濃度をよく確認すること。

次亜塩素酸ナトリウム消毒液の作り方（例）

※ペットボトルで消毒液を作った場合は、子供や高齢者等の誤飲事故を防ぐため、ペットボトルに入れたまま放置をせず、バケツ等容器に移して使うようにしてください。

市販されている漂白剤の原液を次亜塩素酸ナトリウム濃度 5%として

①高汚染疑い部分（漂白作用等の副作用が高いので注意）

0.1%（1000ppm）の布で拭いて、5～10分したら水拭き

- ・ 500ml のペットボトルに、通常飲料が入っている程度の水と、キャップ 2 杯分（10ml）の漂白剤を入れる（50 倍）
- ・ 高汚染部分でウイルスを撒きあげる恐れがある場合、噴霧処理はしない。

②一般部分消毒 0.05%（500ppm）：推奨

- ・ 500ml のペットボトルに、通常飲料が入っている程度の水と、キャップ 1 杯分（5ml）の漂白剤を入れる（100 倍）
- ・ 清拭は上記同様。

③予防的な衣服つけ置きや清拭等

0.02%（200ppm）

- ・ 2000ml のペットボトルに、通常飲料が入っている程度の水と、キャップ 2 杯分（10ml）の漂白剤を入れる（200 倍）